

平成30年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	福井県民生活協同組合	代表者	理事長 竹生 正人	法人・事業所の特徴	県民せいきょうの事業は組合員・利用者のための事業です。私たちは生協人として利用者の満足向上のために常に利用者の立場で考え、誠実に行動します。敦賀きらめきでは利用者ができる限り自分の力を発揮しながら自分らしく生活できる（「あなたらしさいつまでも」10の基本ケアを実施）ように応援していきます。そのために、本人と家族の思いに沿えるよう交流を深め、信頼関係の構築に努めます。また、地域社会からも信頼される事業所を目指し、地域とのつながりを大切にします。
事業所名	小規模多機能ホーム 敦賀きらめきハウス	管理者	服部 眞二		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人		3人	1人			1人	3人		9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	①初期支援・・・新規に利用者があった時は、利用前に把握できたアセスメント情報をミーティングで共有し、プランについての理解を充分に行った上で対応できるようにする。当初通いのみだった人が泊まりをされる時などは、ベッドか布団か等、状況に対して必要な情報を得て共有するようにする。	・利用前に把握できたこと、アセスメント情報についてはミーティングで共有するとともにミーティングノートでの周知を図り、本人や家族についての理解を深めた上で対応している。担当者を2名設定し、利用上の細かな変更についてはケアマネからその都度伝達している。	/	・アセスメント情報を充分に把握し、本人、家族の思っていることをよく理解するように努める。また、本人、家族との信頼関係を築くために、コミュニケーションを多くとるようにする。退院後そのまま利用するような場合、ミーティングで情報を詳しく共有した上で、密に関わるようにする。本人が利用している（来ている）理由を理解しているか考える。
	②「～したい」の実現・・・各利用者の「～したいこと、できなくなったこと、したかったこと」を把握（答えやすい項目を作ってアンケートをとるなど）し、行事企画や日々の活動の中で実現できるように関わっていく。 ・担当者を中心にアセスメントを行って、情報を共有できるようにする。	・本人から、したいことはなかなか出て来ないため、アンケートは実施せずに、日々の関わり（会話）の中で、何を楽しんでいるか、楽しみにしているかを把握するように努めた。ミーティングで情報を共有し、行事企画等（外出、外食など）の中に反映できるようにした。		・本人の「～したいこと」を少しずつでも明らかにできるように関わりを深め情報を共有した上で、全員で検討していく。 ・家族は、在宅介護を続けるか施設入所かぎりぎりの思いで、食事や入浴などの援助以外は考えられない状況の場合があり、そのような時も本人が楽しめることがあると感じていただくように努めていく。
	③日常生活の支援・・・利用者の「できること、できそうなこと、できないこと」を再度確認し、できることは手を出さず、できそうなことは声がけや誘導で行えるように関わっていく。対応については毎日のミーティングで共有し統一する。	・できることへの見守り、できそうなことへの声かけ誘導は日々行えている。対応方法についてはほぼ毎日行っているミーティングにて検討し、欠席者も含めミーティングノートによって共有している。		・本人の自宅での暮らし方をもっとよく知るように努め、それにつながるような援助を実施していく。 ・本人の心身の変化や家族の都合に対しては、これまで通り即時的に対応できるようにする。

	<p>④地域での暮らしの支援・・・本人との会話の中で地域との関わり（季節によって行うことなど）を知り、生まれ育った環境を確認するとともに、そこから「したいこと」が見つからないか、情報（一人ひとりのストーリー）をみんなで共有し検討する。</p>	<p>・本人の居住地が事業所の地域と離れていたり、子供が住む新しい住宅地に転居して来たケースも多いために、現在の地域での関わりや支援までできていない。</p>		<p>・その地域に昔からいた人ばかりではないが、現在の地域の中でのつながりがあるか、日常生活をどのように過ごされているかを、送迎時や訪問の時などにも情報を得るようにするとともに、家族からの具体的な話があれば、共有し理解していく。</p>
--	---	---	--	--

A. 事業所自己評価の確認

<p>⑤多機能性ある柔軟な支援・・・敦賀市の社会資源情報シートを共有し、地域のサービスについての知識を職員が共有し、ミーティング時に援助についての提案ができるようにするとともに、ケアマネからも利用の有効性が考えられるサービスがあれば、他職員に提案し検討、利用者や家族にも伝えるようにする。</p>	<p>・地域のサービスについてはまだ知識が少なく提案は難しいが、本人の変化や家族の要望への対応は柔軟にできている。</p>		<p>・ミーティングで本人の変化や家族の希望に対しての検討を行い、対応方法を共有していく。地域のサービスについてはケアマネジャーとともに利用について検討し、本人家族への提案を行うようにする。</p>
<p>⑥連携・協働・・・利用者の居住地の地域の情報については、ケアマネが中心となり収集し、必要な連絡体制が整えられるようにする。職員も通いの送迎や訪問時に地域の様子に注意して情報を得るようにする。</p>	<p>・地域とのつながりについては、子供と同居するため遠方から出て来た人も多く、なかなか連携がとれるような状況にないことがある。地域包括支援センターからの相談や紹介があり、信頼関係ができている。</p>		<p>・サービス担当者会議には、担当職員も参加し他事業所との連携を図る。また、散歩も含め地域の中に出かける機会を多くして、近隣住民とも馴染みの関係を作っていく。</p>
<p>⑦運営・・・事業所のあり方についてミーティングや会議で積極的に話し合いのできる雰囲気作りを行い、各自が運営方針を理解して実践できるように努める。また、駄菓子屋を通じて、子供から地域の方とのつながりがもてるように継続していく。</p>	<p>・事業所のあり方については、まだ自分の意見を言えない職員が多いが、本人や家族の声を聞いてミーティングで検討することは行っている。駄菓子屋は中止になったが、子供たちは時々遊びに来るようになっている。</p>		<p>・利用者本人、家族、地域からの声をくみとって、事業所の運営をより良いものにする。運営推進会議では引き続き地域の困りごとなどを相談できる場としていく。</p>
<p>⑧質を向上するための取組・・・研修には参加している。・毎日のミーティング等で、利用者の対応や業務上のリスクについてはその都度話し合っている。 ・研修後良いと思われたことは、ミーティング等で話し合い共有し検討している。 ・運営推進会議で地域の方との話し合いの場をもっている。</p>	<p>・事業所内の研修はほぼ参加できているが、事業所外のは、日々の人員配置に余裕がなく、なかなか参加できていない。リスクマネジメントについては、ミーティングで事故防止のための情報を共有しているが、ヒヤリハット報告をもう少し積極的に行えれば良かった。</p>		<p>・研修については、希望のあるものには参加できるよう、あらかじめ勤務表に組み込むなど、余裕のある体制作りを図る。また、研修の情報が全員に届くように情報を共有する。リスクマネジメントは日々のミーティングを活用し、事故等を未然に防ぐように努めていく。</p>

	<p>⑨人権・プライバシー・・・身体拘束や虐待を行わないことはもちろん、プライバシーや個人情報の管理はこれまで通り適切に継続していく。排泄に関して、トイレでのプライバシーの配慮については、扉を開け放したりロックをしないで入ることだけでなく、他の利用者や本人にも聞こえるような状況で、職員間での連絡をしないことも徹底できるようにする。</p>	<p>・身体拘束や虐待を行わず、個人情報の管理も適切に行っている。排泄や入浴時も本人が恥ずかしいと感じないように職員間で情報を共有し対応している。</p>		<p>・身体拘束や虐待は行わず、プライバシー、個人情報の管理は従来通り適切に行っていく。利用者本人の尊厳を守り、入浴や排泄時にも気持ちに充分配慮した関わり方をするように努めている。</p>
A. 事業所自己評価の確認			<p>(外部評価意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所が自己評価に取り組んでいることは確認できました。 ・職員の経験や考え方によっても、自己評価は変わって来ますね。 	<p>(事業所自己評価全体として)</p> <p>アセスメントとその理解及び職員の共通認識を第一に考え、本人、家族の思いを受け止められるように努め、信頼関係を築いていくようにする。</p>
B. 事業所のしつらえ・環境	<p>昨年8月から開店した駄菓子屋を時機をみて(インフルエンザ等感染症流行期は閉店)開き、子供やその親に事業所をよく知ってもらい、いつでも見学や相談のできる事業所を目指していく。</p>	<p>駄菓子屋については中止することになったが、子供たちは時々オセロをやりに来たり、絵を描きに来たり気軽に寄ってくれるようになった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の子供が気軽に寄れることは良いことだと思います。 ・(利用者)居心地も良いし、不快なことはありません。 ・駄菓子屋を中止したのは知らなかった。 ・玄関が開いたままになっていた位なので、日中カギをかけていないことは分かりました。 	<p>駄菓子屋は終了したけれども、子供たちは時々遊びに来てくれるようになった。引き続き、いつでも見学や相談のできる、近所(地域)に開かれた事業所となるように努めていく。</p>
C. 事業所と地域のかかわり	<p>事業所近隣の地域(市野々、公文名)に年月をかけて情報誌や活動を通じて事業所について地域にお知らせしていく。</p>	<p>情報紙は年度途中で形態が変更となり、その後町内の回覧はしていない。栗野公民館での秋の文化祭への参加は継続しており、小学生の下校時の見守り隊活動で、小学校から感謝状をいただいている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の人は大体(きらめきを)知っていると思う。 ・特に相談するようなことはないけれども、あれば相談できると思う。 ・こども神輿の時は休憩所に利用させてもらって助かっている。 	<p>栗野公民館での秋の文化祭への参加を継続し、その他地域での催しや活動があれば、利用者とともに参加できるように計画する。</p>

D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地地域での催しや集まりに出かける機会を増やせるよう運営推進会議にて、地域と事業所が情報交換を行う。	事業所の外に出ることは、季節に応じ利用者の希望を聞いて出かけるようにしている。地域での集まりについては、参加できるものがあるかどうかあまり把握できていない。	・利用者以外の近所の方について心配な方がいないかは、運営推進会議で毎回ケアマネから確認していますが、対象になるような方が今のところはないようです。	地域での催しや集まりで、参加できるものがあれば出かけられるように、運営推進会議にて地域と事業所が情報交換を行っていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	引き続き運営推進会議にて、地域での高齢者の困りごとを把握し事業所内でも情報を共有しておく。相談が必要な事例があれば会議にて対応を検討する。運営推進会議についての要綱を提示する。	運営推進会議では、毎回ケアマネから、地域での困り事がないかお聞きしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・心配な方がいても、勝手に（地域包括支援センターや事業所に）紹介することはできない。区長や民生委員では限界がある。 ・防災訓練や祭りなど、地域の行事に参加してはどうですか。 ・入院していても、知らないうちに退院して来ている方があり、利用者でもそういう人はいませんか。 ・サービスを利用していた人や、退院時に在宅生活に不安のある人の場合は、病院の連携室から市や地域包括支援センターに連絡が入り、心配なく退院できるようにしているので大丈夫と思われます。 	運営推進会議にて、地域での高齢者の困りごとを把握し事業所内でも情報を共有しておく。相談が必要な事例は会議にて対応を検討する。
F. 事業所の防災・災害対策	地域での防災（訓練）計画について、運営推進会議において把握し、連携した防災訓練を検討すると共に事業所としての災害時の対応方法事業所内外に分かりやすく周知する。	地域と連携した防災訓練については、まだ行なえていない。事業所の訓練には、地域の自警団の方に参加していただいた。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の防災計画は、施設に掲示してあるわけではないので分からない。 ・ファイルしてあるが、地域の方が閲覧できるようにはしていない。 ・近所の自警団の方に、事業所の防災訓練に参加していただいています。 	地域での防災（訓練）計画について、運営推進会議において把握し、連携した防災訓練を検討すると共に事業所としての災害時の対応方法を分かりやすく周知できるようにする。